令和３年度第４回森林環境保全税関連事業評価委員会議事録

# １　日時

令和４年３月１８日（金）１０：００～１５：３０

# ２　場所

鳥取県立倉吉未来中心　（セミナールーム１）（倉吉市駄経寺２１２－５）

# ３　出席委員

荒田　鉄二（公立鳥取環境大学環境学部　教授）

岡本　順子（鳥取県西部経済研究会　会員、米子ユネスコ協会　会員）

小椋　陽子（琴浦町赤碕婦人会　会長）

神谷　明子（鳥取県生活協同組合　全域理事）

小林　佳崇（（一財）鳥取県観光事業団　事務局本部　マネージャー）

嶋田　治　（一般公募委員）

大丸　修二（米子商工会議所青年部　副会長、（株）大丸水機　代表取締役社長）

竹歳　和晃（（一社）倉吉観光マイス協会　常務理事、ホテルアーク21　副支配人）

山本　昌志（八頭中央森林組合　課長）

※委員数９名が出席し、定足数に達しているため本会は成立となる。

# ４　議事

## 　・令和４年度とっとり県民参加の森づくり推進事業（ソフト事業）の企画書等の審査及び選定（第１次募集分）

　各企画提案者から企画内容の説明を受けた後、質疑応答を行い、企画提案者の退室後に審査・採点を行った。

### ＜審査結果＞

　審査の結果、８団体中、７団体が採択された。

### ＜質疑応答＞

### ①グラウンドワーク大山蒜山

〇委員

　イベントの1日当たりの参加人数はどのくらいなのか。

→〇企画提案者

　20人ぐらいが望ましいが、多いと最大で45人くらい。少ないときは２人などもあるが、参加人数に限らずイベントは行っている。

○委員

　最少催行人数を決めておき、参加申込が少ない時はイベントを中止し、次回へ経費を回す方が税の使い方の観点からみてもふさわしいのではないか。

　また、ほぼ毎週イベントを行っていることを、もっと周知できるよう工夫してはどうか？参加人数の少ないイベントの募集方法を工夫して欲しい。子供だけでなく、親御様にも周知する等工夫して参加者を集めて欲しい。

→〇企画提案者

　安全管理上や講師の人数を考えると、毎週多人数の参加者だときつい。特にたくさんの人に来てほしいイベントの時は、それなりの人数が集まるように周知している。

→〇事務局

　HPやFacebookに年間のイベント案内を掲載するなどの工夫を既にされているので、そのことを最初に知ってもらえるきっかけの周知を強化されると良いのではないか。

→〇企画提案者

　広く皆様へ周知できるよう検討し工夫します。

### ②日野川の源流と流域を守る会

〇委員

　イベントの周知を会報へ掲載しているとのことだが、会報は一般の方も見ることが可能なのか。配布先はどうなっているか。

→〇企画提案者

　会員への配布のほか、役場にも配布し広く皆様の目に触れるところへ置いてもらうようにしている。HPにも掲載し、イベント内容の詳細も知っていただけるように案内している。また、中海テレビの日野川物語という番組で1ヶ月間イベント情報を放送していただいたりしている。

　また、個人会員に加え、企業会員にイベント案内を郵送することで、企業内での人のつながりで広く周知できている。

○委員

　非常に魅力的なイベント内容なので、会員様だけでなく一般の方の参加が増えるような周知をして欲しい。HPがあるといってもHP自体を知らない方がほとんどであると思うので、会員外の方へも周知できるようにイベント情報の周知方法を工夫して欲しい。

→〇企画提案者

　関係機関を通して周知したり、会員様の知人の方を紹介していただいたりしており、引き続き広く周知し、多くの方へ参加していただけるように努めていきたい。

### ③伯耆町豊かな森づくり実行委員会

〇委員

　企画のうち「中学生による林業体験」は、昨年度対象外としたものと同内容で見直しがされていない。学校の職場体験の一部としての林業体験を、5名という限られた生徒を対象に、これだけの人数の指導員で実施する企画に、森林環境保全税を使うことは、多くの県民の参加を募るという本事業の趣旨に合わないのではないか。

〇委員

　林業体験の内容に関しても、昔ながらの古い林業の印象が強い内容になっている。機械化が進むなど、林業の現場は様変わりしており、もう少し近代の林業を取り入れた内容に改善したほうが、中学生向けには良い体験となり、理解も深まると思う。

○委員

　この林業体験は、中学校のカリキュラムの一環という位置付けなのか。

→〇企画提案者

　学校のカリキュラムの一環である。

　昨年度対象外とされた理由や、皆様の意見を伺いたく、昨年同様の内容で企画提案させていただいたが、本日いただいた意見を持ち帰り改善したい。林業体験の内容に関しても、ご指摘の通りだと思うので検討したいと思う。

＜企画提案者の退室後、審査中の意見＞

○事務局

　中学生による林業体験が昨年度と同内容であったことは、事務局の事前の確認不足であり、申し訳ありません。昨年同様、林業体験以外の部分のみ採択とするか、本日の意見を踏まえて見直しした企画書で再度応募いただき次回審査するか、どちらが望ましいか。

→○複数委員

　昨年度から見直しがされていない時点で、審査対象外とも考えられる。次回審査でも何とか間に合う時期であり、林業体験を除いて一部採択するよりは、内容を見直し再度応募いただいた方が良いのではないか。

→○事務局

　それでは、審査結果は採択か不採択の２択であるため不採択となるが、継続審査案件として認識しており、必要な見直しをした上で再度応募いただきたい旨、事務局から企画提案者に伝えることとします。

### ④南さいはく地域振興協議会

〇委員

　炭焼きというのは実際どのくらいの時間がかかるものなのか。この企画ではどの範囲の体験ができるのか。

→〇企画提案者

　1日4回、火の温度管理をして1週間で出来上がる。子供たちには、出来上がった炭を取り出す体験もして欲しいので、順序は逆になるが炭を取り出す作業を先に体験してもらい、その後炭作りを体験してもらう。

○委員

　きのこづくり教室のみ警備員を雇用しているのは何故か。

→〇企画提案者

　2つの公園の入り口が重なっており、同日開催の緑水園の収穫祭に約1500人の人が集まるため、安全面と混雑を緩和させるために警備員に誘導してもらう必要がある。

〇委員

　開催広告料の4分の1負担とはどういう意味か、詳細を教えて欲しい。

→〇企画提案者

　イベントちらしは、同日に別団体が開催する収穫祭とまとめて両面で作成し、経費を折半するためである。

### ⑤一般社団法人鳥取県木造住宅推進協議会西部支部

〇委員

企画書には一般の方も参加できると記載されているが、高専の生徒の育成教育のように見える。実際、一般の方はどう関わっているのか。

→〇企画提案者

一般の方も参加できるイベントとしているが、集まりにくいのが実情。建築に関心がある若手の育成に力を入れ、将来性のある人材を育成していくことをねらいとしている。

### ⑥大山ブナを育成する会

〇委員

　経費に「賃金」とあるが、賃金ではなく謝礼と表記した方が適切なのではないか。

→〇事務局

　本事業では、会場準備スタッフ等への謝礼も含めて「賃金」と表記することにしている。

### ⑦鳥取県木材協同組合連合会

〇委員

　とても良い企画だと思うが、対象が小学生以下だけなのはもったいない。ターゲットを小学生以下に絞る理由は？

→〇企画提案者

　開催場所がとっとり二十一世紀の森であり、小学生以下が楽しめる施設であるため。中学生以上も対象とするとなると、とっとり出合いの森などが相応しいと思う。

〇委員

　案内看板の経費について、3つの看板の本体貸与とあるが、毎年同イベントを開催されており今後も続けていかれるのであれば、貸与でも高額であるので看板を作成してはどうか？

→○企画提案者

　立看板を収納する場所がないため、立看板の本体は林業試験場から無償貸与してもらっている。経費は、イベント内容をテント生地に印字し、本体に貼り付けたものを業者に作成・設置してもらう経費である。確実に来年度も同イベントを開催するという確約もないので、今後も貸与で準備したい。

〇委員

ＤＭは県内全域に郵送しているのか。

→○企画提案者

会場に近く参加しやすい東部を中心にＤＭを郵送している。他の地域の方には、ＨＰと新聞広告で周知する。

〇委員

コロナ等やむを得ない状況が発生した場合は中止か延期のどちらか？

→○企画提案者

2週間か1か月以内での延期で対応したいと考えている。昨年度も延期した上で開催した。

### ⑧特定非営利活動法人里山地域研究会

〇委員

印刷の経費について、コピー代金1枚10円で20枚分の経費が計上されているが、20枚程度で足りるのか？

→〇企画提案者

学校内へ配布するチラシの印刷は主に教育委員会にお願いしているため計上していない。20枚はそれ以外の持ち出し分である。

# ５　その他

## ・各団体のイベント情報一覧の作成・HP掲載について

〇委員

　前々から思っていたのだが、各団体の活動日と内容が分かる年間イベントカレンダーを作成して、県の森林環境保全税のホームページにでも掲載して欲しい。委員をしていても実際いつイベントがあるのか把握しづらいし、一般の方に分かりやすく周知するには最適の方法だと思う。

→〇事務局

　承知しました、どこに掲載するのが最適か、どういった形が最適か検討し作成します。

## ・森林環境保全税のあり方の検討について

　事務局から、資料７に沿って説明。今後も検討状況を報告する。

## ・次回の開催予定

　次回の会議は６月下旬を予定。（令和４年度事業の２次募集分審査）

以上